

豊田市民芸祭

「とよた連句まつり」2018作品集

平成三十一年十一月十八日

於 豊田市福祉センター46会議室

主催 ころも連句会

公益財団法人豊田市文化振興財団

(芙美)名勝地から紅葉の便りが満載ですが、こちら

豊田は恒例の連句まつりで浮き浮きです。連句は捌

と連衆とで巻き上げる「座」の文芸。秋日和の一日は

談笑の音が賑やかでした。名句迷句の並ぶ各座の楽

しい作品をお届けします。ご笑覧下さい。皆さまご参

加いただき有難うございました。

(藍)おかげさまでこの連句まつりも今年は二十回

をこえました。会場も昔は秋の大学祭でしたから、学

生と地域の方々と連句人の交流が歓迎され、「すてき

な三句」と「付け句」の全国大会も開催。その縁で「全

国高校付け句コンクール」も14年続きたいへんお世

話になりました。お仲間がたくさんできて、今回も御

常連やゼミ卒生の顔がみえ、ネット連句KUSARIから

もご来客―虚と現実の空間が出会うような。「僕は多

分全回出席」って声は多治見のアップさんかな。新人

も登場。「えっ神奈川県から？」びっくりうれしい声。

知るひと知らぬひとが、句を付けて出会う人生のな

つかしさ。―きつとまたお会いしましょうね。

*****作品*****

I 連句ROCK ①

「柀や」の巻 捌 板倉合

柀や一枝手折り連句会

武藤美恵子 冬

夢を担いだサンタクロース 板倉合 冬

独奏のユーフォニウムの響きいて 塚本益美

バリトンきかせ同衾懇願 原田徹夫

やつと来た金婚式の月円か 益 秋

ずらり並んだ新酒どぶろく 恒川暁子 秋

平成三十一年十一月十八日 首尾 豊田市福祉センター

捌き(合)「連句ROCK」は藍先生が授業実践向

けに作られた短い形式です。二季で月の座か花の座

を(両方入れてもよい)。どこかで恋も楽しんでと

いうルールです。一年ぶりの方や久しぶりの方たち

と話を弾ませながら完成。ウォーミングアップにも

つてこい。とはいえ激しい恋句をいただきました。

II 連句ROCK ②

「返り花」の巻 捌 板倉合

夢うつつ言の葉つむぐ返り花 板倉合 冬

しわぶきの主は元区長なり 羽州 冬

三線に猫も踊りて日々平和 塚本益美

隠せどちらり襟足のあざ 恒川暁子

やけ酒に満月ぬつと山に出で 羽 秋

雁渡りゆく先にD51 ロッシー 秋

平成三十一年十一月十八日 首尾 豊田市福祉センター

捌(合) 初参加の山形生まれの羽州さん、快調でし

た。それなのに、ここでお詫びを。脇「あばら家の

主」よかったのですが、連句ROCKといえども、

脇は発句と同季、同時、同場だということをつか

りしていました。「しわぶき」に直して冬の句に。

羽州さん恋句でも、すぐ反応して大笑いしながら

「やけ酒」の句を。楽しい作品になりました。皆さ

III 連句ROCK ③

「飄々と」の巻 捌 板倉合

凧に抗いもせず飄々と みの虫アツパ 冬

朽野の果て小町伝説 恒川暁子 冬

永遠に手繰り続ける赤い糸 ア

一か八かの即ベッドイン たつきち

神々もざわめきめでの花の里 近藤とみ子 春

子等は並んで菜飯ほおぼる 曉 春

平成三十一年十一月十八日 首尾 豊田市福祉センター

捌(合) 一年ぶりのみの虫アツパさんのしみじみし

た発句をいただき、「小町伝説」「赤い糸」そして

遠路はるばるおこしいいただいた、たつきちさんの

「即ベッドイン」六句のうち三句も恋句です。いい

ですね。今、ここにおいて、みんなで句を生み出そ

う、作品を作ろうというエネルギーを感じていま

す。「神々もざわめきめでの花の里」に「子等が菜

飯ほおぼる」なんて。やっぱり、連句は面白い素

晴らしい文芸だと改めて思います。ありがとうございます。



連句14① 妖怪尽くし

「十尺掘れば」の巻 捌 矢崎藍
藍 冬

狐狸妖怪たわぶれせんとや集うらん
おむすびいかか笑む雪女 石川桃李 冬

オーライと座敷童子は試合中
のつぺら坊は靈感で見る 石原未那 冬

メイク前鏡のなかにいたお化け 宇井希 秋

にやにや消えるチェシヤ猫の月 草笛奏 秋

秋深く一反木綿山を越え 間瀬芙美 秋

ひわが突つつくタンタンコロリン 奏 秋

「大鮎！」覗いてみれば戸板に血 徹 冬

高下駄蹴って天狗歯ざしり 未 冬

冷酒呑むほどにからみし轆轤首 奏 夏

小豆とぎまじしよきしよきしよきと 桃 春

花の下十尺掘れば魍魎魍魎 徹 春

踊り浮かれる妖精の春 希 春

平成三十年十一月十八日首尾 於豊田市福祉センター
捌(藍)連句ROCKと同様の授業用で14句形式
です(月花・四季あり)今回は全部の句に妖怪をい
れて遊びました。座敷童子と雪女がおにぎり交流
したり、あれメイク前の鏡の中にいるの誰?つい
に花の下十尺から魍魎魍魎掘りだしちゃった。二
十代から七十代混成のおとなたちの過去現在、天
地をかけまわる脳の働きを「らんくください。(それ
にしても妖怪って人間くさいものですね。)



獅子沓冠①

「星崎の」の巻 捌 深津明子
芭蕉 冬

星崎の闇を見よとや鳴く千鳥 草笛奏 冬

振り向く先に灯のともる窓 みのむしアツパ

素人の手なぐさみなる水彩画 みのむしアツパ

都会を捨てて島の赴任地 近藤とみ子

ざわめいて僕の鼓動は不整脈 稲垣渥子 春

風光る中恋に落ちゆく 稲垣渥子 春

禁断の高嶺の花は眩しくて みの 春

朝採り野菜晩にしな みの 春

ミラクルな夢の中での赤い月 と 秋

七夕様に祈る次の世 渥 秋

老いてなおいくつも趣味をこなしおり 武藤美恵子 全

付けて遊んで地酒嗜み 全

平成三十年十一月十八日 首尾 於豊田市福祉センター
VI 獅子沓冠②

「鷹ひとつ」の巻 捌 深津明子
芭蕉 冬

鷹ひとつ見つけてうれしいらご崎 荒川道子 冬

カメラ放列狙う裏技 荒川道子 冬

階段で滑って転んでいま八十路 ロッシー

奇想天外AIの囲碁 みのむしアツパ

ひとひらの花を摘まみし白き指 ロッシー 春

熱い視線にからちたいばら たつきち 春

父ちゃんにそっくりな婿酒注ぐ 稲垣渥子 春

のつぺらぼうが何かようかい 深津明子 春

掴みとる幸せいっぱい苺籠 ロッシー 夏

勝ちダービーでポケット重し 道 夏

獅子(四句四連)十六句です。発句を分解して、長句の冠と短句の脊に文字を配置。一連一季、四季順行、一花一月の形式です。渥子さんのフォローを頂き、なんと二巻を巻くことができました。「脊冠」は難しかったというのが実感です。最初・最後の文字が決まっているのでイメージ通りの句になりません。連衆のみなさんも苦戦、あれこれ言葉を出し合いながら良い付け句になった時は嬉しかったです。後で見直すと四三など「うわー、直せない」という部分が多々ありました。そこは目をつぶっていたくださると思います。皆さまありがとうございます。



三半歌仙 ① 尻取り 名月やの巻 捌 伊藤良重

名月や池を巡りて夜もすがら 翁 仲秋

唐芋もろう奥さんの笑み 伊藤良重 三秋

見渡せば丹精の菊盛りにて 羽州 晩秋

てんてんてんまり声もにぎやか 間瀬芙美

かわいらし一年生は私の孫 近藤とみ子

御器囃退治よそう平然 ドリー 三夏
前科あり離婚歴あり雨乞いず 由川慶子 晩夏

素足のままで胡蝶追う君 ロッシー 三夏

未来へと振り向かないで進む日々 たつきち

ヒビ割れ茶碗金継ぎをする みの虫アツパ

するすると垂直の壁登る人 森田美耶子

扉開いて冴ゆる月見ゆ 州 三冬

油田には魑魅魍魎が跋扈して 重

手をこまねいて難民の列 耶

強い子になりたくて飲むミロの味 恒川暁子

地をコーティング春の雪解け 耶 三春

時計台愛を鳴らして花の中 矢崎 藍 晩春

課長昇進言祝げる蝌蚪 正村有 晩春

平成三十年十一月十八日 首尾 於豊田市福祉センター

捌(良重)今回、豊田市の広報を見てきてくださった

羽州さん。「歌仙の愉しみ」を読んで、連句に興味を

持たれたそうです。発句は芭蕉さんの有名な句をい

ただきました。まずは「尻取り」の例にと「十七季」

の中から「から」で始まる季語を探して脇に。後は、

例年参加の皆さんが次々と付け句を出され、文化振

興財団他のお客様が見えたところには満尾してしまし

た。少し急ぎすぎたようです。ごめんなさい。KUS

ARIがご縁でいらっしやっただつきちさん、次は

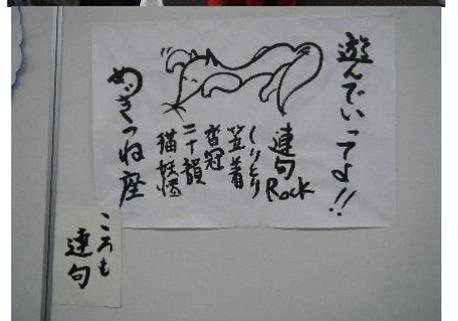
ぜひ座で一緒にしましょう。花の座は、妖怪連句を中

座していただいて、藍先生につけていただきました。

尻取りは、イベントとして定着した感があり、次から

はもう少し長い形式にしてもいいかな、と思ってい

ます。



二十韻「連句まつり」の巻 捌 間瀬芙美

秋深し連句嬉しいまつりかな 間瀬芙美 晩秋

お酒まつたりうまき昼月 板倉合 三秋

瓜坊の右に左にまろびつつ 由川慶子 晩秋 3

電柵頼み過疎の山里 みの虫アツパ

ウ ばあちゃんへドローンで運ぶカップ麺 森田美耶子

卒業写真の髪は三つ編み 慶

キス二回たった二回で結婚し 芙

まさかの坂で狐出没 慶 三冬

手袋に飴いっぱい詰めて 田中イスズ 三冬

いつでも褒めてくれる先生 慶

ナオ 日本ではパソコン出来ぬ大臣おり 伊

投票したい次の元号 伊藤良重

コンピニのポテトチップス激辛で 合

橋のたもとで飛んだほうたる 芙 仲夏

月涼し終電までも君といて 伊

有り難きかな人の繋がり 喜感謝

ナウ 千年を眠る墳墓を調査する 耶

丸い地球はぐるり軟東風 芙三春
妖精のないしよ話に花吹雪 草笛奏 晩春
待ちどおしきは北国の春 ア三春

平成三十年十一月十八日首尾 於豊田市福祉センター

捌(芙美)二十韻は終了近くに始めましたが皆さんの協力で面白く巻き上がりましたね。さて山里を守る電柵これは厳しい現実。そこにドローンが大活躍、皆で盛り上がりました。先生に褒められ、現代の大臣の笑い話に元号と面白く時事が繋がりました。ナオ五の下五が月で脇の昼月も下でしたので一直させていただきました。喜感謝さんの人の繋がりがいいですね。ナウ折立は日中調査でしたが近くに日本がありますので一直しました。妖精の付を奏さんからいただき花吹雪。あ北国ももう花便りがくるかなとアツパさんの挙句。時間がわずかな中楽しい時間を共有できて感謝しています。有難うございました。



筥着 脇起歌仙「煮大根」の巻

捌 長坂節子 正村有 石川葵
夢の世に生きて夫婦や煮大根 明雅 三冬

ラヂヲ流るる小春日の部屋 石川葵 初冬
プログラマーオフィス庭の苔むして 正村有
宅配便の荷が下される 由川慶子
同窓の酔客辞する月明り 羽州 三秋

ウ 人里の実り求めて野猪来たる みの虫アツパ 晩秋
地球の怒り異常気象に 近藤とみ子
最新のアンドロイドに恋をして 石川桃里

還暦なれどミニスカートを 宇井希
渡良瀬川ひとり歩けば蹴躓き たつきち

山葵の花の微笑に月 ロッシー 初夏
毀つ家の風の連れ来る蝉時雨 荒川道子 三夏

平衡感覚ちよつと変なの 恒川暁子
大臣になったとたんポロが出て 希
順番待ちのあの人気店 武藤美恵子

ナオ群衆の中に紛れる小灰蝶 慶 三春
野球少年バットぶんぶん 葵
オロナミンCサンドイッチを差し入れて伊藤良重

バス窓より拝む山やま 森田美耶子
大鳥居くぐり鳶のびーひよろろ 有

A型O型相性の良く 板倉合
抜け首の色気たつぷり近松忌 原田徹夫 仲冬

もう咳しても一人じやないの 草笛奏 三冬
シミュレーションアプリで自在に男変へ石原未那
不安な時は熱いココアを 喜感謝

有明のバイクアクセル全開に 節 三秋
紅葉揺るるか津軽三味線 有 晩秋

ナウ 晩学の書を読みふける秋の末 田中イスズ 晩秋
関帝廟の長き線香 福井直子
低金利財布も軽く身も軽く 葵
土筆の中に残るガンダム 間瀬芙美 三春

七曲八曲里は花に暮れ 矢崎 藍 晩春
膝の擦り傷薄れゆく春 節 三春

平成三十年十一月十八日 首尾 於豊田市福祉センター
捌(有)筥着とは、通りがかりの人に立ち寄って、連句の付句をして頂くという、文字通り、筥を着け、立ったまま五七五と七七を複数の人で交互に付け合っていく文芸です。「豊田市の広報を見て来ました」という方、遥々相模原市からこの連句まつりを目指して来ましたという方もあり、賑々しく巻き上がりました。明雅先生の句を発句に頂き、筥着歌仙「煮大根」の巻は二十九人の心意気が詰まった、気合の入った4ものとなりました。最初は筥着が何かも知らなかったのですが、楽しみました。歌仙は長いですねー。



皆さま素敵な年末を！